

今を未来に

2学期が始まって2週間がたちました。

蒸し暑い日が続く中、子どもたちは日常の生活リズムを取り戻し、学校・家庭の学習習慣についても1学期に身に付けてきたことを確かめながら、学習に取り組んでいます。来週22日(月)と24日(水)は保々小学校全学級の公開授業を予定しています。保々地区の教職員の研修のために公開授業を行うのですが、これは以前から続けられている保幼小中高プラザの連携のもと進めている18年間の育ちのプログラムの検証と、本校で言えば「学び合う授業づくり」が「なかまづくり」につながることを確かめ合う研修会と捉えています。25日(木)・26日(金)は中学校の授業公開があります。



そのためにではありませんが、今週は先生方も「学び合う授業」を意識して、子どもたちが考え合いたくなるような学習課題を作りながら授業に臨みます。学力調査の結果も受けて子どもたちの力を借りながら、いっしょに授業づくりをしていきたいと考えています。

5年生の稲刈り終わる

HPにも紹介させていただきましたが、5年生の稲刈りが先週の8日(月)に行われました。本当は5日(金)に予定されていましたが、天候が悪く、田がぬかるんでいたため、延期となっていました。

子どもたちは長靴を履き、手には鎌を持ち、お借りしていた田の周りから手刈りをしていきました。こうした収穫は何かわくわくするんでしょうね。どの子どもも笑顔で、大事そうに稲を刈っていました。刈った稲は、



「保々の自然に親しむ会」の方が用意していただいた、昔の道具で脱穀しました。「千歯こき」「足踏み脱穀機」「とうみ」など、どれも地域で大切に使われてきた道具を、小学生の学習用に保存、貸出してもらっています。初めての道具や、そのしぐみに感心しながら、昔の米作りの苦労を少し知ることができました。



今年は、夏の日照時間が短く、大きな打撃を受けたことなどを「保々の自然に親しむ会」の方から聞きました。そういえば、8月の終わりごろ、黄金色に染まる田がどこことなくくすんで見えたのは、そのためだったのですね。この地域の田によっては、例年の半作になった田もあったと聞きました。収穫したお米は、地域の方にもみすりしていただき、自然教室で炊いていただく予定です。

毎年のこととは言え、「保々の自然に親しむ会」の皆様には、十分すぎるほど子どもたちの活動を応援いただき、ありがとうございます。10月に入ると今度は1・2年生がサツマイモ掘りでお世話になります。お土産となるサツマイモもいただきますが、現地ですぐに子どもたちに食べさせてあげようと計画していただいていると聞いています。また、よろしく願います。

避難訓練・不審者対応訓練を行いました。

9月3日（水）に、地震が発生し、放送設備が使えないという設定の元、避難訓練をしました。1学期に行った避難訓練では、話声がしたり、動きが緩慢だったりする姿があって、訓練の中での話ではその姿を叱らなければならないといったことがありました。しかし今回の訓練は、そのような注意をする必要はなく、「命を守る」ということを、どの子どもも大切に感じている様子で、保々小の子どもたちの成長を感じました。

私（校長）からは、日本は災害が多い国であること、今も広島では行方不明になっている方を懸命に捜索していること、避難所となっている学校があって始業式が体育館でできなかった学校があること、みんなと同じぐらいの小学生が夢を持ちながら土砂で命を落としてしまったことなどを話しました。また、大きな地震が本当に起こった時の教室や廊下の様子を想像し、避難したくてもできないかもしれないことや教室の物が凶器となって飛んでくる中、身を守ることなどの話もしました。私は2年前の夏、宮城県へボランティアへ行きました。夏の炎天下の中、長袖・長ズボン、厚いゴム手袋、マスク、鉄板の入った長靴を履いてのボランティアでした。被災された方が「やっぱり故郷で生活を再建したい。」と思われていて、瓦礫を撤去するには最後は人の力がある、そんな想いをホームページの記事で知って行きました。そして、全校児童108人のうち74人が、勤務をしていた職員11人のうち10人の方が亡くなられた、あの大川小学校にも行かせてもらいました。大川小学校の運動場に立って、校舎の方を振り返ったあの光景は、校長として（当時は教頭として）絶対に忘れてはいけない光景だと思っています。



左に円形校舎、真ん中に曲線を持つ校舎がありました。窓は枠ごとありませんでした。



円形校舎側から運動場をみた風景です。学校のすぐ横には小高い山があります。なぜ、この山に登らなかったのか…。災害にあった後は誰もがそう思います。助かった子どもは、この山の木にしがみついていたそうです。考えられないようなことが起こるのが自然災害であると、この事実からも肌で感じました。

三重県でも大地震が起これば、必ず津波が来ると言われています。四日市では最大震度6弱が想定されていましたが、見直しがあって震度6強になり、沿岸部は震度7と予測されています。また保々地区にいますと「津波はない」と思ってしまいますが、地震が起こった時に海の近くにいるかもしれません。おうちの方は仕事先が海に近いかもしれません。また、大雨と重なっていれば朝明川の決壊もありえることです。いざという時のために、想像がつく限りの光景を、一度おうちでも話し合ってみてください。通学路で大きな地震にあい、電柱が倒れ、高速道路の橋げたが落ちている、狭い路地でブロック塀が倒れてくる、そんな光景を想像し、「この地点なら学校へ、この地点なら家に戻ってきてね。」そんな会話を、どの家庭でも交わしておいてください。